

2 「戦争と人々の暮らし～Mさんとその家族の営みから考える歴史と未来～」

提案者より

- ・教師が感銘を受けた広島で教材化したいという思いから単元づくりを始めた。
- 広島市立袋町小学校（爆心地近く）の壁の伝言板の写真
- Mさんが娘の死を先生に伝えた。どんな思いで書いたのだろうか？子供と一緒に考えていきたい。
- Mさんを通して、Mさんに焦点化して、戦争について考えていくことにした。

視点①について

- ・Mさんとの出会わせ方を工夫した
- Mさん年表→子供と同世代に生きたMさんを追うことで、どのようにして戦争を生き抜いたかがより自分ごととして捉えることができる。
- CG（原爆投下前後）→まちの様子や人々の暮らしの様子の変化をより視覚的に捉えることができる

・クラス学びと個人学び

クラスのテーマや問題はみんなで追究していくと同時に、個人的に気になったことや調べたいことなども個人のテーマとして追究していく形をとった。本単元では、個人学びから、袋町の黒板につながり、本気の学習問題が成立していった。

視点②について

- ・本気の学習問題
- 資料を3つ（①Mさんの追記、②Mさんが描いた原爆投下後の人々やまちの様子絵、③終戦後の年表）を提示した。児童から「あれだけ戦争したのに、世界はまだ終わらない。」といった発言や、自分たちの日常を見直したり生かそうとしたりする言動が見られた。

成果

- ・導入の工夫
- ・人の営みをじっくり見る
- ・単元の振り返り→「どれだけ対立しても、話し合いで解決する」

課題

- ・本気の学習問題の成立について→1人の意見から成立してしまっていないのか

質疑応答

- ・個人学びがどのように生かされたのか→発言の根拠となっていた

新井先生より

「人の営みに学ぶ」ということから、本単元でのMさんに焦点を当てたのはよかった。

評価規準について。より具体の姿を構想立てる時に考える必要が有る。